

## 2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立面瀬小学校

採択活動名

「自分の考えをもち、行動する児童の育成 ―地域素材の教材化と単元構成の工夫を通して―」

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「海で遊ぼう」	1	学校行事 生活科
2. 「おもせのしき」	2	学校行事 生活科
3. 「面瀬川調査隊」	3	総合的な学習の時間
4. 「面瀬川調査隊」	4	総合的な学習の時間
5. 「学ぼうふるさと気仙沼の海」	5	総合的な学習の時間
6. 「もののとけ方」	5	理科
7. 「つくろう守ろうグレートオモトープ」	6	総合的な学習の時間

取り組みの概要

震災復興途上の環境の中で地域教育資源を掘り起こし、「海を知る」「海に親しむ」「海を守る」「海を利用する」の視点に基づき、「環境」「多様性」をテーマとして学習活動を編成してきた。総合的な学習の時間や理科、社会科などの教科横断的なクロスカリキュラムによって単元づくりを進め、実践した。

&lt;成果&gt;

- ・ 低学年では、学校行事（遠足）で海を目的地に加えて、海に親しむ活動を取り入れた。遠足の後に海で拾った貝や石、シーグラスなどの自然物を用いて造形遊びを行った。体験的な活動を増やし、児童が海を身近な物として捉え、海に対する関心を高めることができるよう工夫した。
- ・ 中学年では、学習のフィールドを校内のピオトープ「オモトープ」から面瀬川へ、そして面瀬川から海へとつなげて考えられるよう、総合と社会科、理科のクロスカリキュラムでの海洋教育を推進した。学習を通して、児童の思考の流れや学びの連続性を大切にして学習を展開し、特に理科における知識理解や科学的な見方・考え方を働かせることができた。地域の海とのかかわりや、その暮らしの良さに気付かせ、環境に対する感性を磨くことができた。
- ・ 高学年では、海を通して児童が他地域や世界とのつながりを考え、自ら環境保全に向けた行動を実践できるような単元構成を工夫した。児童は、気仙沼の人々と海に深いつながりがあることに気付いただけでなく、地域をさらによりよいものにしようとする意欲を高めることができた。

&lt;次年度への課題&gt;

- ・ 海洋教育を進める中で、環境保全に関する知識や道徳的心情の高まりを基に、社会に還元する実践や提案にまで高めることができた。次年度は、さらに海外を含めた他地域に向けた発信や学校間の交流ネットワークを発展させていきたい。



図1 海洋プラスチックごみ対策の発表(6年生)



図2 かき養殖場での動物プランクトンの観察(5年生)



図3 遠足で訪れた大島小田の浜で海に親しむ(2年生)